

陳情第1号

陳情書



令和6年1月30日

南九州市議会議長 今吉 賢二 殿

南九州市と子や孫の未来を考える会
住所

代表 西 次雄
副代表 通子 幹夫
幹事 高 甲 俊博
川口 正一

新庁舎建設65億円の見直しを求める陳情書

議会の皆様におかれましては、平成19年の合併から行政の重要課題である新庁舎建設に向け、市民の代表として慎重に議論を重ねて来られたことに敬意を表します。

市は平成24年度「庁舎の在り方市民検討委員会」、平成29年度「庁舎建設等市民検討委員会」の提言を経て、令和4年2月に基本設計を策定し総事業費45億円としました。ところが1年後の昨年3月、急激な物価高騰を理由に建設費が65億円になったことを議会全員協議会で説明し、広報4月号で市民に伝えました。7月に行われた市民説明会では20億円の事業費増額に多くの意見が出されましたが、この3月議会において建設に向けた動きが加速されていくものと思われます。

私たちは新庁舎建設に反対なのではありません。素朴に65億円の庁舎が適切な額であるのか。人口減少が著しい中、多額の借金を返済していくのは子どもや孫の世代であり、その負担はとて大きく他の政策に影響が出てくることは必至です。さらに、令和9年度から計画されている川辺庁舎や額娃庁舎の改築、知覧庁舎の解体等の経費も含めた具体的な計画は示されておりません。

この間のコロナ禍で市民と直接対話する機会が失われ、さらにSNS時代の到来で市民への説明が不十分であったことは残念でなりません。市の広報紙で庁舎建設の経過説明は丁寧に行われておりますが、そもそも65億円もかけて庁舎を作る必要があるのかという声は大きくくすぶっています。議会で承認されたとはいえ、市民の感覚とあまりにも大きな隔たりが生じており納得できるものではありません。

「南九州市と子や孫の未来を考える会」は、議会制民主主義の元、市民の代表である議会が頼りです。さらに、その根底にある住民自治は地域づくりの要であると考えています。人口減少が急激に進む中、65億円の庁舎建設を今一度見直し、市民生活に関わる環境の整備、安心して子育てができ夢の持てる政策、高齢者の福祉、農業等の振興、弱い立場にある人への配慮などに予算を使って欲しいのです。議会はもっと市民に寄り添ってほしいと願っています。

この陳情が議員の皆様にとって重く苦しい判断を強いるかもしれませんが、陳情の趣旨を汲んでいただきご賛同くださいますようお願い申し上げます。